

第47回

上富田町俳句大会入賞作品

特選

【一般】

（松本 武千代 先生 選）

駒を置く音の高さや秋季澄む

上富田町 しちべえ

藍青の天に切り込む鷹柱

田辺市 尾崎 均

（城戸 杉生 先生 選）

魚の眼の無邪気に寄り来箱眼鏡

田辺市 山中 晴美

早世を受け入れられず盆の月

貴志川町 中島 走吟

入選

【一般】

（松本 武千代 先生 選）

少年の玉虫秘むる燐寸箱

大分市 小野 道山

包丁に野鍛冶の銘や走り蕎麦

大分市 小野 道山

峰雲の下は鎖場縦走路

みなべ町 武田 恵子

王子跡の風は語り部青すすき

田辺市 杉原 莊司

初蟬や童心に巻き戻す朝

田辺市 凜

待つという豊かな時間春の闇

松本市 めだか

蟬時雨びたりと止みし余白かな

田辺市 榎本 正巳

庭先を訪ふ風清し白桔梗

すさみ町 片倉 充子

紫の草をお召しに雛かな

上富田町 山崎 祥代

しのぼるる手入れ幾千薔薇の庭

田辺市 堀 あや子

入選

（城戸 杉生 先生 選）

草木の色も匂ひも失す早

田辺市 腰前 八重子

いたはりて互ひに傘寿西瓜食む

上富田町 田浦 陽子

寝たきりの窓の外には彼岸花

岐阜市 田中 恭司

砂浴びる鶏に興味の夏休み

田辺市 那須 眞千代

近付けばはしやぎて逃げる稲雀

白浜町 石垣 実男

賑はひは線香花火以ておはり

白浜町 湊 容子

藍青の天に切り込む鷹柱

田辺市 尾崎 均

夏カレー廃校跡のレストラン

吹田市 小北 月子

ふるへ字の一句残して春に逝き

上富田町 山崎 祥代

清秋やすなりと句の出来さうな

田辺市 浜岡 美哉子

佳作

【一般】

（松本 武千代 先生 選）

利休忌や露地下駄揃ふ躍り口

田辺市 杉原 莊司

駄菓子屋の古き引戸やわらびもち

田辺市 杉原 莊司

母がいたただそれだけでお正月

すさみ町 千世女

真つ白なキャンパスにさす青葉光

上富田町 田浦 陽子

太き腿悴む吾子を挟み込み

白浜町 紹々

大いなる男の茶碗早稲の飯

上富田町 宮内 信子

鶺鴒色のけやき並木や風薫る

堺市 池田 敬子

魚の眼の無邪気に寄り来箱眼鏡

田辺市 山中 晴美

苦を見せず生き抜く人や冬すみれ

田辺市 那須 眞千代

鎌止めて風に確かむ時鳥

白浜町 石垣 実男

鶴舞う海よりの風は秋

白浜町 湊 容子

校長の主審が仕切る盆野球

田辺市 尾崎 均

子との距離少しちぢめて草の餅

田辺市 榎本 正巳

千枚田縁取る千の彼岸花

田辺市 榎本 正巳

はづみある二人の会話秋日傘

すさみ町 片倉 充子

新しき獅子光撒く社かな

上富田町 山本 陽子

素焼なる母の文鎮秋深む

上富田町 山崎 祥代

群鳩のうねりの風や刈田道

上富田町 山本 陽子

熊楠の文字の揺るるよ団扇風

田辺市 浜岡 美哉子

「米騒動」我関せずの案山子かな

上富田町 やすべえ

佳作

（城戸 杉生 先生 選）

雲海を出ては又入り下山バス

みなべ町 武田 恵子

手にするも開けず読まずに落し文

田辺市 杉原 莊司

尾を立てて風の音聴く赤とんぼ

田辺市 腰前 八重子

湯たんぼの湯の音やさしやはらかし

白浜町 紹々

下萌や畦に二つのランドセル

上富田町 しちべえ

嵌め殺しの窓を離れぬ鱗雲

松本市 めだか

栗鼠の尾のするりと消ゆる夏木立

田辺市 初山 紀子

願ひ事吊す風鈴よく鳴りぬ

堺市 池田 敬子

すみませんを有難うに木の葉髪

田辺市 那須 眞千代

ひと仕事終へて畦道鳥渡る

上富田町 片倉 美智子

金継ぎの一筋走り秋気澄む

白浜町 山本 容子

何もかも一括りされ秋の草

白浜町 山本 容子

迎へ火や亡父に似てきし末の子と

上富田町 森 京子

校長の主審が仕切る盆野球

田辺市 尾崎 均

子との距離少しちぢめて草の餅

田辺市 榎本 正巳

はづみある二人の会話秋日傘

すさみ町 片倉 充子

ガラス器に透ける菊酒供へけり

上富田町 本西 満穂子

鉦叩もうお別れの音ならん

田辺市 浜岡 美哉子

ぼつかりと割れて種吐く椿の実

田辺市 堀 あや子

一病をいたはる介護秋桜

田辺市 米澤 百